ZEOSTENT V
Slim for Delivery Innovation

XIEMEX

CASE REPORT 06

細径内視鏡でのゼオステント Ｖの使用経験

富山県立中央病院　内科（消化器）
松田　耕一郎 先生

はじめに

近年、消化器内視鏡処置具の細径化により、処置時間の短縮化や難易度の高い処置も普及するようになってきた。また、細径内視鏡と組み合わせることにより、種々の場面での有用性が期待される。ゼオステント　Ｖは細径内視鏡の鉗子口径でも挿入、展開可能なシース径 5.4F の Laser cut type の SEMS である。今回我々は、輸入脚の狭窄に対して消化管ステント留置後に細径内視鏡（OLYMPUS GIF-XP290N）によりゼオステント　Ｖを展開し、減黄可能であった症例を経験したので報告する。

症　例

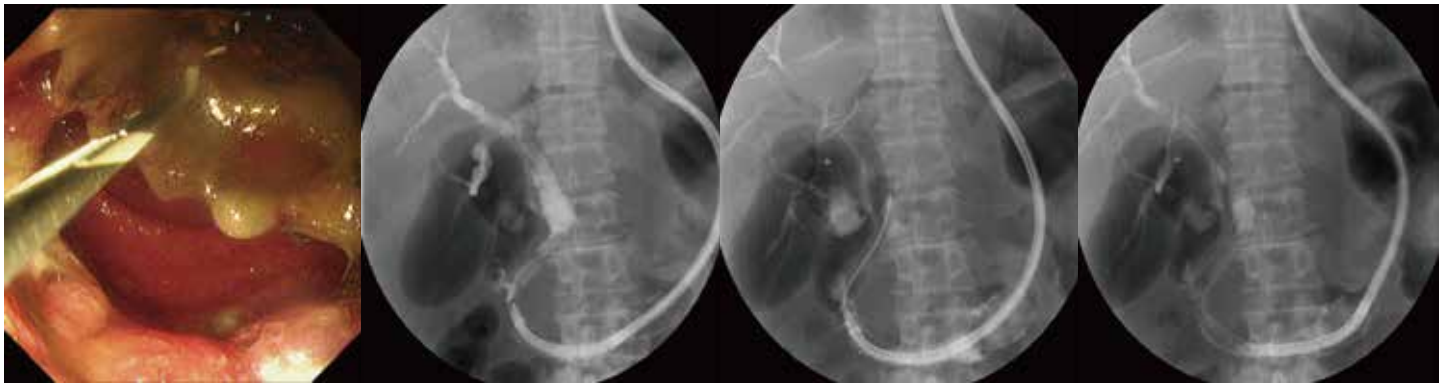
症例は８０代男性、皮膚黄染にて紹介受診、膵頭部癌による閉塞性黄疸と診断し、減黄処置を内視鏡的に施行予定とした。胃癌で胃切除の既往があり、再建方法は Billroth-II 法であった。再建腸管であったために直視鏡（OLYMPUS GIF-Q260J）で ERC 施行し、他社製 covered SEMS（10mm x 60mm）を留置した。

経　過

経過は順調であったが、腫瘍の増大に伴い腫瘍浸潤による胆管ステント閉塞、輸入脚への消化管浸潤を認めたために再度、直視鏡（OLYMPUS CF-H290I）で ERC を試みた。直視鏡では乳頭部までは消化管への腫瘍浸潤により到達できず（図 1a,1b）、まず消化管ステント（22mm x 60mm）を留置した（図 2）。

1a	1b	2

胆管再閉塞に対して減黄目的に一期的に胆管ステントの再留置を考慮したが、消化管ステントが十分に展開しておらず直視鏡は挿入不可能であったため、細径内視鏡で胆管ステント留置を試みた。消化管ステント内に細径内視鏡を挿入し、十二指腸乳頭まで到達し胆管造影が可能であった（図3a,3b）。0.025 inch のガイドワイヤーを留置し、細径内視鏡の鉗子口より、5.4 F シースのゼオステント　V を挿入（図 4）、デリバリーシステムのガイドワイヤーへの追従性の良さにより狭窄部の突破は容易であり、ステント（10 mm x 100 mm）を stent in stent の形で留置した（図 5）。



3a	3b	4	5

コメント

通常、同様のケースであれば、消化管ステント留置後にバルーン拡張を追加、もしくは時間的な余裕があれば、完全に消化管ステントが展開するまで待機した後に通常の直視鏡で胆管ステントの留置を試みることもあるが、細径内視鏡で狭窄を通過可能であるならば、一期的に胆管ステントまで留置をすることが可能である。細径内視鏡の鉗子口で使用可能なゼオステント　V であるが、その追従性の良さも特筆すべきものがある。通常の ERCP で造影チューブで狭窄突破が難しい症例であっても、細径且つ良好な追従性のメリットを活かし、拡張なしにステント留置可能である症例も経験している。また 5.4F シースのゼオステント　V であれば、鉗子口より同時に 2 本を挿入可能であり、肝門部狭窄であれば左右同時に容易に side by side でステントを留置することも可能である。術後再建腸管等の Balloon ERCP で、オーバーチューブを留置後に細径内視鏡＋ゼオステント　V で胆管狭窄などの解除も可能であり、ゼオステント　V は様々な状況で活躍できると考えている。

製造販売元
ゼオンメディカル株式会社
URL:http://www.zeonmedical.co.jp

XEMEX は日本ゼオン㈱の登録商標です。

■販売名:ゼオステント V
■特定保険医療材料請求分類:「胆道ステントセット　自動装着システム付　永久留置型　カバーなしの一部」
■承認番号:22900BZX00237000

Nov. 2021
1121005(WV02)